

今さらですが プログラム授精を考えるII

釧路中部事業センター 虹別家畜診療所 獣医師 石川 行一

前号でのお約束通り、臍内留置型プロジェステロン製剤を併用したプログラム授精をご紹介します。プロジェステロンとは黄体ホルモンのことで、黄体から出るホルモンです。臍内留置型プロジェステロン製剤には、「A」「B」「C」の3種類があります(写真1)。3つとも徐々にプロジェステロンを放出します。臍粘膜から

吸収され、プロジェステロンの血中濃度を通常より1.5倍ほどにできるといわれています。

Aはお使いになった組合員さんも多くいらつしやると思いますが、Bは最近発売されたものです。それぞれの違いは、プロジェステロンの量がAは1.9g、Bは1.55g、Cは1.0gで、この違いは大きいかもしれません

が、形状等でカバーできるそうです。使用可能期間がAは14日間、BとCは12日間で少し短い。また、Bにはエストジエンのカプセルがついています。これは、取り外し可能です。

シダーシンク(オブシンクと臍内留置型プロジェステロン製剤併用：図1)

Day 0のGnRHと同時に挿入し、day 7の抜くのと同時にPG投与します。

CはAと同様の使用方法でいいでしょう。

Bを使用する場合はDay 0のGnRHを投与は必要ありません。ただし、少し挿入期間を長くする方がいい成績が得られるようです。



写真1

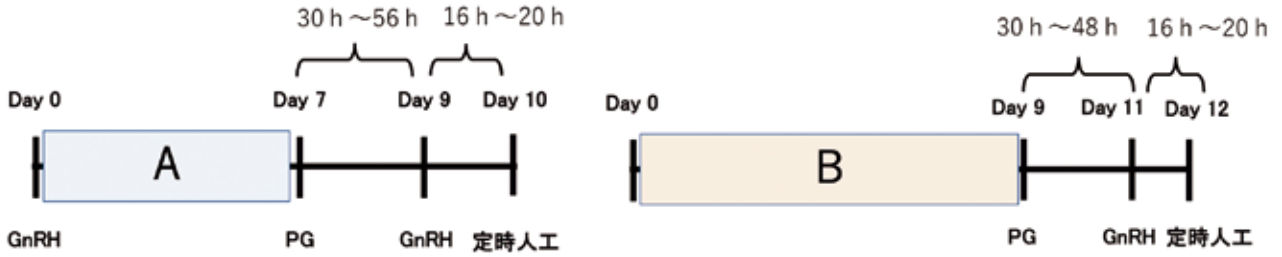


図1 オブシンクと膈内留置型プロジェステロン製剤併用

また、私は3回ぐらい繁殖の治療をして「卵巣に動きがない」「小さい卵胞だけ」「卵巣が小さい」このような牛に、Aを2週間挿入したままにします。抜いて発情が来ればよし、来なくても、黄体ができていればPG、そのまま動きがないようにみえても、2週間以内に発情が来ることがあります。このようなことはBでも同じことがいえるかもしれませんが（発売されたばかりなので使用した頭数が少ないので自信があり

HeatSynchと膈内留置型プロジェステロン製剤の併用(図2)
 こちらも、Day 0のGnRHと同時に挿入し、day 7の抜くのと同時にPG投与します。
 プログラム授精と膈内留置型プロジェステロン製剤を使うことによって、より良い成績が期待できます。また、前回もお伝えしましたが、いろいろな変法が雑誌等で紹介されていますし、コストがかかります。やってみようとお考えの方は獣医師に相談してください。

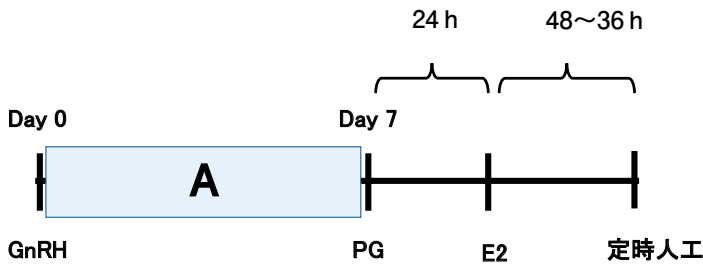


図2 Heatsynchと膈内留置型プロジェステロン製剤併用

ませんが)。長期間プロジェステロンを放出するので、発情周期が再開するきっかけになるのではないかと考えています。
 二回にわたり、プログラム授精を紹介してきました。保険給付外のことなので実費がかかってしまいます。獣医師に相談の上、お試しになってください。